

# 四半期報告書

(第103期第3四半期)

自 2021年7月1日  
至 2021年9月30日

株式会社ブリヂストン

# 目 次

	頁
第103期第3四半期 四半期報告書	
表 紙 .....	1
第一部 企業情報 .....	2
第1 企業の概況 .....	2
1 主要な経営指標等の推移 .....	2
2 事業の内容 .....	3
第2 事業の状況 .....	4
1 事業等のリスク .....	4
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	4
3 経営上の重要な契約等 .....	9
第3 提出会社の状況 .....	10
1 株式等の状況 .....	10
2 役員の状況 .....	11
第4 経理の状況 .....	12
1 要約四半期連結財務諸表 .....	13
2 その他 .....	38
第二部 提出会社の保証会社等の情報 .....	39

四半期レビュー報告書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2021年11月11日

**【四半期会計期間】** 第103期第3四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

**【会社名】** 株式会社ブリヂストン

**【英訳名】** BRIDGESTONE CORPORATION

**【代表者の役職氏名】** 取締役 代表執行役 G l o b a l C E O 石橋 秀一

**【本店の所在の場所】** 東京都中央区京橋三丁目1番1号

**【電話番号】** 03(6836)3162

**【事務連絡者氏名】** G財務経理部門長 井上 智裕

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区京橋三丁目1番1号

**【電話番号】** 03(6836)3162

**【事務連絡者氏名】** G財務経理部門長 井上 智裕

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第102期 第3四半期 連結累計期間	第103期 第3四半期 連結累計期間	第102期
会計期間		自 2020年1月1日 至 2020年9月30日	自 2021年1月1日 至 2021年9月30日	自 2020年1月1日 至 2020年12月31日
売上収益 (第3四半期連結会計期間)	百万円	2,004,164 (741,247)	2,401,758 (832,969)	2,805,410
税引前四半期(当期)利益又は損失 (△)	百万円	△10,553	264,964	716
親会社の所有者に帰属する四半期 (当期)利益又は損失(△) (第3四半期連結会計期間)	百万円	△24,118 (△2,074)	422,848 (70,528)	△23,301
親会社の所有者に帰属する四半期 (当期)包括利益	百万円	△126,165	548,817	△108,005
親会社の所有者に帰属する持分	百万円	2,131,713	2,596,961	2,149,958
総資産額	百万円	4,111,558	4,452,661	4,189,327
基本的1株当たり四半期(当期) 利益又は損失(△) (第3四半期連結会計期間)	円	△34.25 (△2.95)	600.49 (100.15)	△33.09
希薄化後1株当たり四半期(当期) 利益又は損失(△)	円	△34.25	599.57	△33.09
親会社所有者帰属持分比率	%	51.8	58.3	51.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	315,026	174,644	526,947
投資活動によるキャッシュ・フロー	百万円	△141,666	183,045	△155,378
財務活動によるキャッシュ・フロー	百万円	70,677	△348,743	18,077
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	百万円	661,106	850,232	810,546

- (注) 1 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移につきましては、記載しておりません。
- 2 売上収益は、消費税等抜きで表示しております。
- 3 上記指標は、国際会計基準(以下「IFRS」という。)により作成された要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。
- 4 2021年3月31日において当社の子会社FIRESTONE BUILDING PRODUCTS COMPANY, LLC(以下F S B P)をHolcim Participations (US) Inc.に売却したため、非継続事業に分類しております。これに伴い、第103期第3四半期連結累計期間、第102期第3四半期連結累計期間及び第102期の売上収益(第3四半期連結会計期間)及び税引前四半期(当期)利益又は損失の金額については、非継続事業を除いた継続事業の金額に組み替えて表示しております。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間における、当社グループが営む事業の内容の変更並びに主要な関係会社の異動については、以下のとおりであります。

(米州)

当社の米国子会社であるBRIDGESTONE AMERICAS, INC. は、2021年3月31日に、同社の子会社であり米州セグメントに属するF S B Pを、スイスの建設資材メーカーであるLafargeHolcim Ltdの米国子会社であるHolcim Participations (US) Inc. に売却いたしました。

これに伴い、F S B Pは当社の連結子会社ではなくなり、「BRIDGESTONE AMERICAS, INC. が統括する屋根材事業」は、主要な製品・サービス・事業ではなくなりました。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 要約四半期連結財務諸表 要約四半期連結財務諸表注記 6. 事業セグメント」に記載のとおりであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前期の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において、判断したものであります。

また、当社の米国子会社であるBRIDGESTONE AMERICAS, INC.は、2021年1月6日(現地時間)に、同社の子会社であり米州セグメントに属するF S B Pを、スイスの建設資材メーカーであるLafargeHolcim Ltdの米国子会社であるHolcim Participations (US) Inc.に売却することについて、同社と合意し、2021年3月31日に売却が完了いたしました。

これにより、第1四半期連結会計期間より、F S B P及び同社の子会社を非継続事業に分類するとともに、前第3四半期連結累計期間についても、組み替えて表示しております。

詳細は、「第4 経理の状況 1 要約四半期連結財務諸表 要約四半期連結財務諸表注記 6. 事業セグメント」に記載のとおりであります。

#### (1) 業績の状況

第1四半期連結会計期間から、セグメント区分を変更しております。また、前年同期の数値について新たなセグメント区分に組み替えたうえで、前年同期比の数値を計算しております。

当社の連結子会社であるブリヂストンサイクル株式会社が製造した自転車・電動アシスト自転車の一部対象車種においてリコールを実施したことに伴い、当該自転車・電動アシスト自転車の点検・改修等に関連した費用を計上しております。なお、当第3四半期連結累計期間において、当該費用を調整項目としておりますので、前年同期におきまして、同様の区分にて組み替えて表示しております。

#### ① 業績全般

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減	
			金額	比率
	億円	億円	億円	%
売上収益	24,018	20,042	+3,976	+20
調整後営業利益	2,779	1,037	+1,742	+168
営業利益	2,658	225	+2,432	—
税引前四半期利益又は損失(△)	2,650	△106	+2,755	—
親会社の所有者に帰属する四半期利益 又は損失(△)	4,228	△241	+4,470	—

当第3四半期連結累計期間(2021年1月1日から2021年9月30日)の当社グループを取り巻く環境は、COVID-19変異株による感染再拡大や半導体不足の影響により一部の地域では景気の回復ペースが減速したものの、各国でのワクチン接種が大きく進展し、世界経済の持ち直しの動きが継続しました。グローバルのタイヤ需要に関しては、新車用タイヤにおいて半導体不足による車両減産のマイナス影響を大きく受けましたが、補修用タイヤでは、各国での経済活動の回復に加え、新車不足に伴う中古車市場の活況もあり、需要が堅調に推移しました。地域別では、米国や欧州で着実に需要が回復する一方、東南アジアではCOVID-19感染再拡大が深刻化、また、日本では緊急事態宣言が続いたことで相対的に弱い回復にとどまり、各地域の景況感に大きな差異が見られました。

一方、コスト面では、昨年来の世界経済の持ち直しと連動する形で天然ゴム・原油が高値圏で推移し、海上運賃単価や工場でのエネルギーコストについても高騰が続いており、当社グループの収益性を圧迫する要因となっております。

そのような環境下、当社グループは、需要回復を捉えた生産・販売活動に注力し、足下の業績を確実に回復させるとともに、中期事業計画に基づく本質的な体質改善に取り組んでおります。コア事業における「稼ぐ力の再構築」に向け、「経費・コスト構造改革」、「プレミアムビジネス戦略強化」を柱とした収益性向上への取り組みをスピード感を持って実行しています。当第3四半期連結累計期間においては、「プレミアムビジネス戦略強化」の一環として、高インチャタイヤの販売比率向上、メジャーブランドへの集中、戦略的売値改善などを推進し、売値・販売ミックスの良化によりコスト高騰のマイナス影響を大きくカバーしました。

それらの結果、当社グループの第3四半期連結累計期間の売上収益は24,018億円(前年同期比20%増)、調整後営業利益は2,779億円(前年同期比168%増)、営業利益は2,658億円(前年同期は225億円の利益)、税引前四半期利益は2,650億円(前年同期は106億円の損失)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は4,228億円(前年同期は241億円の損失)となりました。

② セグメント別業績

		当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減	
				金額	比率
		億円	億円	億円	%
日本	売上収益	6,831	6,130	+701	+11
	調整後営業利益	549	366	+183	+50
米州	売上収益	10,468	8,497	+1,971	+23
	調整後営業利益	1,474	656	+818	+125
欧州・ロシア・ 中近東・インド・ アフリカ	売上収益	5,075	3,947	+1,128	+29
	調整後営業利益又は 損失(△)	324	△126	+450	—
中国・アジア・ 大洋州	売上収益	2,762	2,326	+436	+19
	調整後営業利益	321	162	+158	+98
その他	売上収益	475	371	+104	+28
	調整後営業利益又は 損失(△)	52	△10	+62	—
連結 合計	売上収益	24,018	20,042	+3,976	+20
	調整後営業利益	2,779	1,037	+1,742	+168

当第3四半期連結累計期間(2021年1月1日から2021年9月30日)の各セグメントにおける業績は、新車用タイヤにおいて半導体不足による車両減産のマイナス影響を大きく受けた一方、補修用タイヤでは、各国の経済活動回復や中古車市場の活況により需要が堅調に推移した結果、以下のとおりとなりました。

[日本]

乗用車及び小型トラック用タイヤの販売本数は前年同期を上回り好調に推移し、トラック・バス用タイヤの販売本数は前年同期を著しく上回りました。この結果、売上収益は6,831億円(前年同期比11%増)となり、調整後営業利益は549億円(前年同期比50%増)となりました。

[米州]

北米タイヤ事業において、乗用車及び小型トラック用タイヤの販売本数は前年同期を大幅に上回り、トラック・バス用タイヤの販売本数は前年同期を著しく上回りました。この結果、売上収益は10,468億円(前年同期比23%増)となり、調整後営業利益は1,474億円(前年同期比125%増)となりました。

[欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ]

欧州では、乗用車及び小型トラック用タイヤの販売本数は前年同期を上回り順調に推移し、トラック・バス用タイヤの販売本数は前年同期を大幅に上回りました。この結果、売上収益は5,075億円(前年同期比29%増)となり、調整後営業利益は324億円(前年同期は126億円の損失)となりました。

[中国・アジア・大洋州]

乗用車及び小型トラック用タイヤの販売本数は前年同期を上回り好調に推移し、並びにトラック・バス用タイヤの販売本数は前年同期を大幅に上回りました。この結果、売上収益は2,762億円(前年同期比19%増)となり、調整後営業利益は321億円(前年同期比98%増)となりました。

(注) セグメント別の金額はセグメント間の取引を含んでおり、連結合計の金額はそれらを消去した後の数値であります。

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における財政状態の状況は以下のとおりであります。

(資産)

資産合計は、現金及び現金同等物が397億円、営業債権及びその他の債権が287億円、棚卸資産が1,312億円、それぞれ増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ2,633億円増加し、44,527億円となりました。

(負債)

負債合計は、未払法人所得税等が140億円増加したものの、社債及び借入金が流動負債で1,318億円、非流動負債で552億円、それぞれ減少したことなどから、前連結会計年度末に比べ1,803億円減少し、18,137億円となりました。

(資本)

資本合計は、配当金（親会社の所有者）により1,021億円減少したものの、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上により4,228億円増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ4,436億円増加し、26,389億円となりました。

その結果、親会社所有者帰属持分比率は、58.3%となり、前連結会計年度末に比べ7.0ポイントの増加となりました。



(3) キャッシュ・フローの状況

	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	増減
			金額
	億円	億円	億円
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,746	3,150	△1,404
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,830	△1,417	+3,247
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,487	707	△4,194
現金及び現金同等物に係る換算差額	323	△159	+482
現金及び現金同等物の増減額	413	2,282	△1,869
現金及び現金同等物の期首残高	8,105	4,329	+3,776
売却目的で保有する資産に含まれる現金 及び現金同等物	△16	—	△16
現金及び現金同等物の第3四半期末残高	8,502	6,611	+1,891

当第3四半期連結累計期間における当社グループの現金及び現金同等物(以下「資金」)は、全体で397億円増加(前年同期は2,282億円の増加)し、当第3四半期連結累計期間末には8,502億円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金収支は、1,746億円の収入(前年同期比1,404億円の収入減)となりました。これは、営業債権及びその他の債権の増加額382億円(前年同期は営業債権及びその他の債権の減少額524億円)や、棚卸資産の増加額1,284億円(前年同期は棚卸資産の減少額1,017億円)、法人所得税の支払額1,162億円(前年同期は611億円)などがあつたものの、税引前四半期利益2,650億円(前年同期は106億円の損失)や、減価償却費及び償却費1,857億円(前年同期は1,995億円)などがあつたことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金収支は、1,830億円の収入(前年同期は1,417億円の支出)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出1,145億円(前年同期は1,493億円)などがあつたものの、非継続事業の売却による収入3,593億円(前年同期は収入なし)などによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金収支は3,487億円の支出(前年同期は707億円の収入)となりました。これは、短期借入れによる収入602億円(前年同期は3,027億円)などがあつたものの、短期借入金の返済による支出1,713億円(前年同期は2,072億円)や、長期借入金の返済による支出1,086億円(前年同期は3億円)、リース負債の返済による支出446億円(前年同期は423億円)、配当金の支払額(親会社の所有者)1,020億円(前年同期は914億円)などによるものです。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 経営方針・経営戦略等並びに優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等並びに事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更はありません。

## (6) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費は726億円であります。

また、当第3四半期連結累計期間における研究開発活動の状況の重要な変更は次のとおりであります。

### (研究成果)

天然ゴムの持続可能な安定供給・生産性向上に向けた技術開発

高収量のゴム農園実現に貢献することを目的に、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 統計数理研究所の学術指導を経て、ビッグデータを活用した「パラゴムノキ」の植林計画最適化システムを開発し、農園の作地面積を増やさずに天然ゴムの生産性を安定的に向上させる取り組みを進めております。さらに、天然ゴム資源の多様化に向けて、砂漠のような乾燥した地域で栽培可能な植物「グアユール」由来の天然ゴム実用化にも取り組んでおります。NRGene社との共同研究においてはゲノム解析技術を活用し、生産性の高い優良品種の育種につながる遺伝子情報の解読に成功、キリンホールディングス株式会社との共同研究では、グアユールの優良品種の苗を効率的かつ安定的に増やすための技術開発にも成功しております。今後も当社独自のゴムに関する「リアルな強み」と最新の「デジタル技術」を融合させ、様々なパートナーと連携しながら技術イノベーションを加速し、価値を共創してまいります。

(注) 当社グループの研究開発活動には、特定のセグメントに紐づかないものがあり、またその成果はセグメント横断的に効果があるため、セグメント別の状況及び金額の記載を省略しております。

## (7) 生産、受注及び販売の実績

### ① 生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
日本	537,952	+12.5
米州	855,638	+45.0
欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ	440,468	+44.7
中国・アジア・大洋州	230,407	+34.2
合計	2,064,465	+33.7

(注) 1 金額は、販売価格によっております。

2 金額には、消費税等は含まれておりません。

### ② 受注実績

当社グループは、少数の特殊製品（特殊ホース等）について受注生産を行うほかは、すべて見込生産であります。

③ 販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
日本	608,250	+9.9
米州	1,039,183	+22.9
欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ	502,443	+28.1
中国・アジア・大洋州	237,141	+16.8
その他	14,712	+52.7
全社又は消去	28	△10.3
合計	2,401,758	+19.8

(注) 金額には、消費税等は含まれておりません。

(8) 主要な設備

除却等

「欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ」セグメントにおいてBRIDGESTONE FRANCE S. A. S. が保有するベチューン工場について、前連結会計年度に閉鎖を計画しておりましたが、2021年4月に閉鎖が完了いたしました。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,450,000,000
計	1,450,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	713,698,221	713,698,221	東京証券取引所 名古屋証券取引所 福岡証券取引所 東京、名古屋は市場 第一部に上場(注)	単元株式数100株
計	713,698,221	713,698,221	—	—

(注) 名古屋証券取引所については、2021年10月14日開催の取締役会決議に基づき、2021年10月29日付で上場廃止の申請を行っています。同証券取引所に申請が受理された後、整理銘柄に指定された日から、原則として1ヶ月後に上場廃止となる予定です。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	—	713,698	—	126,354	—	122,079

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2021年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

### ① 【発行済株式】

(2021年6月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 9,472,900	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 10,000	—	
完全議決権株式(その他)	普通株式 703,938,600	7,039,386	—
単元未満株式	普通株式 276,721	—	—
発行済株式総数	713,698,221	—	—
総株主の議決権	—	7,039,386	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の株式数には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1,600株含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」及び「総株主の議決権」欄の議決権の数には、いずれも株式会社証券保管振替機構名義の株式に係る議決権が16個含まれております。

### ② 【自己株式等】

(2021年6月30日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(株)ブリヂストン	東京都中央区京橋 三丁目1番1号	9,472,900	—	9,472,900	1.33
ブリヂストンタイヤ 長野販売(株)	長野県松本市小屋南 二丁目18番20号	10,000	—	10,000	0.00
計	—	9,482,900	—	9,482,900	1.33

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

#### 第4【経理の状況】

##### 1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

##### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(2021年1月1日から2021年9月30日まで)に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

# 1 【要約四半期連結財務諸表】

## (1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

	注記	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2021年9月30日)
		百万円	百万円
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		810,546	850,232
営業債権及びその他の債権		667,761	696,456
棚卸資産		491,240	622,441
その他の金融資産	18	7,277	7,507
その他の流動資産		76,279	83,521
小計		2,053,104	2,260,157
売却目的で保有する非流動資産		1,425	4,638
流動資産合計		2,054,529	2,264,795
非流動資産			
有形固定資産	8	1,392,141	1,382,759
使用権資産		290,122	286,578
のれん		97,646	119,248
無形資産		117,481	131,491
持分法で会計処理されている投資		24,543	26,180
その他の金融資産	18	113,222	132,646
繰延税金資産		49,409	54,306
その他の非流動資産		50,234	54,657
非流動資産合計		2,134,798	2,187,866
資産合計		4,189,327	4,452,661

	注記	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2021年9月30日)
		百万円	百万円
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務及びその他の債務		420,140	420,580
社債及び借入金	10,18	293,978	162,143
リース負債		53,966	53,205
未払法人所得税等		34,978	48,930
その他の金融負債	18	29,342	23,788
引当金		64,806	50,400
その他の流動負債		144,526	169,193
小計		1,041,736	928,240
売却目的で保有する非流動資産に 直接関連する負債		12	1,913
流動負債合計		1,041,748	930,153
非流動負債			
社債及び借入金	10,18	412,060	356,888
リース負債		246,187	242,549
その他の金融負債	18	13,937	20,577
退職給付に係る負債		191,679	184,761
引当金		23,730	23,722
繰延税金負債		28,491	42,300
その他の非流動負債		36,205	12,785
非流動負債合計		952,288	883,582
負債合計		1,994,036	1,813,735
資本			
資本金		126,354	126,354
資本剰余金		122,116	122,116
自己株式		△38,657	△38,241
その他の資本の構成要素		△59,851	61,806
利益剰余金		1,999,996	2,324,926
親会社の所有者に帰属する持分合計		2,149,958	2,596,961
非支配持分		45,333	41,965
資本合計		2,195,291	2,638,926
負債及び資本合計		4,189,327	4,452,661



## (2) 【要約四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	
	百万円	百万円	
継続事業			
売上収益	6, 12	2, 004, 164	2, 401, 758
売上原価		1, 296, 973	1, 446, 593
売上総利益		707, 191	955, 164
販売費及び一般管理費	13	624, 368	679, 864
その他の収益	14	7, 861	5, 365
その他の費用	9, 14	68, 137	14, 895
営業利益		22, 547	265, 771
金融収益	15	5, 140	6, 610
金融費用	15	17, 097	11, 587
持分法株式に係る減損損失	9	18, 322	—
持分法による投資損益 (△は損失)		△2, 821	4, 170
税引前四半期利益又は損失 (△)		△10, 553	264, 964
法人所得税費用		26, 787	66, 992
継続事業からの四半期利益又は損失 (△)		△37, 340	197, 973
非継続事業			
非継続事業からの四半期利益	16	15, 908	229, 944
四半期利益又は損失 (△)		△21, 432	427, 916
四半期利益又は損失 (△) の帰属			
親会社の所有者		△24, 118	422, 848
非支配持分		2, 685	5, 068
四半期利益又は損失 (△)		△21, 432	427, 916
1 株当たり四半期利益又は損失 (△)			
基本的1株当たり四半期利益又は損失 (△)			
(円)			
継続事業	17	△56.85	273.95
非継続事業	17	22.59	326.54
合計	17	△34.25	600.49
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失			
(△) (円)			
継続事業	17	△56.85	273.53
非継続事業	17	22.59	326.05
合計	17	△34.25	599.57

【第3四半期連結会計期間】

注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)	
	百万円	百万円	
継続事業			
売上収益	741,247	832,969	
売上原価	476,181	496,702	
売上総利益	265,067	336,267	
販売費及び一般管理費	210,024	237,802	
その他の収益	4,976	1,990	
その他の費用	46,649	4,381	
営業利益	13,370	96,074	
金融収益	1,236	1,462	
金融費用	3,897	3,726	
持分法株式に係る減損損失	△120	—	
持分法による投資損益	798	1,214	
税引前四半期利益	11,628	95,024	
法人所得税費用	19,804	24,495	
継続事業からの四半期利益又は損失 (△)	△8,177	70,529	
非継続事業			
非継続事業からの四半期利益	7,738	1,242	
四半期利益又は損失 (△)	△439	71,771	
四半期利益又は損失 (△) の帰属			
親会社の所有者	△2,074	70,528	
非支配持分	1,635	1,244	
四半期利益又は損失 (△)	△439	71,771	
1株当たり四半期利益又は損失 (△)			
基本的1株当たり四半期利益又は損失 (△)			
(円)			
継続事業	17	△13.94	98.39
非継続事業	17	10.99	1.76
合計	17	△2.95	100.15
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失			
(△) (円)			
継続事業	17	△13.94	98.24
非継続事業	17	10.99	1.76
合計	17	△2.95	100.00

## (3) 【要約四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
	百万円	百万円
四半期利益又は損失(△)	△21,432	427,916
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて測定する金融資産 の公正価値の純変動	△4,772	12,489
確定給付制度の再測定	△8,407	3,987
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	△4	△18
純損益に振り替えられることのない項目合計	△13,182	16,458
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△93,105	110,989
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変 動額の有効部分	586	351
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	△1,773	△972
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△94,292	110,368
税引後その他の包括利益	△107,474	126,826
四半期包括利益	△128,906	554,742
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△126,165	548,817
非支配持分	△2,741	5,926
四半期包括利益	△128,906	554,742

【第3四半期連結会計期間】

注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)
	百万円	百万円
四半期利益又は損失 (△)	△439	71,771
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて測定する金融資産 の公正価値の純変動	4,096	1,332
確定給付制度の再測定	102	3,279
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	1	△28
純損益に振り替えられることのない項目合計	4,199	4,583
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△19,630	394
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変 動額の有効部分	134	537
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	△901	△112
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△20,397	819
税引後その他の包括利益	△16,198	5,402
四半期包括利益	△16,637	77,173
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△16,475	76,132
非支配持分	△162	1,041
四半期包括利益	△16,637	77,173

## (4) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

親会社の所有者に帰属する持分

注記	その他の資本の構成要素						
	資本金	資本剰余金	自己株式	新株予約権	在外 営業活動体 の換算差額	キャッシュ ・フロー ・ヘッジの 公正価値の 変動額の 有効部分	その他の 包括利益を 通じて測定 する金融 資産の公正 価値の 純変動
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年1月1日残高	126,354	121,998	△232,330	3,275	△18,968	△325	58,678
四半期利益又は損失(△)	—	—	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	△91,067	1,021	△4,775
四半期包括利益合計	—	—	—	—	△91,067	1,021	△4,775
自己株式の取得	—	—	△2	—	—	—	—
自己株式の処分	—	—	193,652	△140	—	—	—
配当金	11	—	—	—	—	—	—
支配の喪失とならない子会社 に対する所有者持分の変動	—	32	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替	—	—	—	—	—	—	△4,445
その他の増減	—	—	—	—	—	—	—
所有者との取引額等合計	—	32	193,650	△140	—	—	△4,445
2020年9月30日残高	126,354	122,030	△38,680	3,135	△110,035	697	49,458

親会社の所有者に帰属する持分

注記	その他の資本の構成要素		利益剰余金	合計	非支配持分	合計
	確定給付制度 の再測定	合計				
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年1月1日残高	—	42,661	2,290,696	2,349,378	53,099	2,402,477
四半期利益又は損失(△)	—	—	△24,118	△24,118	2,685	△21,432
その他の包括利益	△7,226	△102,047	—	△102,047	△5,427	△107,474
四半期包括利益合計	△7,226	△102,047	△24,118	△126,165	△2,741	△128,906
自己株式の取得	—	—	—	△2	—	△2
自己株式の処分	—	△140	△193,512	0	—	0
配当金	11	—	△91,531	△91,531	△7,345	△98,875
支配の喪失とならない子会社 に対する所有者持分の変動	—	—	—	32	1,039	1,071
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替	7,226	2,781	△2,781	—	—	—
その他の増減	—	—	—	—	△194	△194
所有者との取引額等合計	7,226	2,641	△287,824	△91,500	△6,499	△98,000
2020年9月30日残高	—	△56,745	1,978,754	2,131,713	43,858	2,175,572

当第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

親会社の所有者に帰属する持分

	注記	その他の資本の構成要素						
		資本金	資本剰余金	自己株式	新株予約権	在外 営業活動体 の換算差額	キャッシュ ・フロー ・ヘッジの 公正価値の 変動額の 有効部分	その他の 包括利益を 通じて測定 する金融 資産の公正 価値の 純変動
		百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	
2021年1月1日残高		126,354	122,116	△38,657	3,125	△112,257	△9	49,290
四半期利益		—	—	—	—	—	—	—
その他の包括利益		—	—	—	—	108,927	522	12,471
四半期包括利益合計		—	—	—	—	108,927	522	12,471
自己株式の取得		—	—	△9	—	—	—	—
自己株式の処分		—	—	424	△64	—	—	—
配当金	11	—	—	—	—	—	—	—
支配の喪失とならない子会社 に対する所有者持分の変動		—	—	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替		—	—	—	—	—	—	△199
その他の増減		—	—	—	—	—	—	—
所有者との取引額等合計		—	—	416	△64	—	—	△199
2021年9月30日残高		126,354	122,116	△38,241	3,062	△3,330	513	61,561

親会社の所有者に帰属する持分

	注記	その他の資本の構成要素		利益剰余金	合計	非支配持分	合計
		確定給付制度 の再測定	合計				
		百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年1月1日残高		—	△59,851	1,999,996	2,149,958	45,333	2,195,291
四半期利益		—	—	422,848	422,848	5,068	427,916
その他の包括利益		4,049	125,969	—	125,969	857	126,826
四半期包括利益合計		4,049	125,969	422,848	548,817	5,926	554,742
自己株式の取得		—	—	—	△9	—	△9
自己株式の処分		—	△64	△59	302	—	302
配当金	11	—	—	△102,107	△102,107	△9,107	△111,215
支配の喪失とならない子会社 に対する所有者持分の変動		—	—	—	—	△124	△124
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替		△4,049	△4,248	4,248	—	—	—
その他の増減		—	—	—	—	△63	△63
所有者との取引額等合計		△4,049	△4,311	△97,918	△101,814	△9,294	△111,108
2021年9月30日残高		—	61,806	2,324,926	2,596,961	41,965	2,638,926

## (5) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

	注記	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間
		(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
		百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益又は損失 (△)		△10,553	264,964
非継続事業からの税引前四半期利益	16	20,741	306,528
減価償却費及び償却費		199,472	185,732
減損損失		35,146	1,747
未払賞与の増減額 (△は減少)		8,207	13,853
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)		△13,698	△9,293
受取利息及び受取配当金		△4,908	△6,280
支払利息		10,523	8,330
為替差損益 (△は益)		△352	△9,032
持分法による投資損益 (△は益)		2,821	△4,170
固定資産売却損益 (△は益)		△2,011	△788
事業・工場再編費用		25,897	7,935
固定資産除却損		1,407	2,018
非継続事業の売却益	16	—	△299,821
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)		52,369	△38,241
棚卸資産の増減額 (△は増加)		101,722	△128,420
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)		△67,195	27,831
返金負債の増減額 (△は減少)		15,070	16,630
事業・工場再編関連引当金の増減 (△は減少)		16,833	△17,683
その他		△9,751	△30,218
小計		381,738	291,623
利息及び配当金の受取額		5,134	7,832
利息の支払額		△10,770	△8,620
法人所得税の支払額		△61,076	△116,191
営業活動によるキャッシュ・フロー		315,026	174,644
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出		△149,259	△114,544
有形固定資産の売却による収入		8,260	2,460
無形資産の取得による支出		△10,919	△15,399
投資有価証券の取得による支出		△794	△4,053
長期貸付けによる支出		△4,354	△9,573
貸付金の回収による収入		910	10,710
非継続事業の売却による収入		—	359,319
その他		14,490	△45,875
投資活動によるキャッシュ・フロー		△141,666	183,045

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
	百万円	百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	302,695	60,226
短期借入金の返済による支出	△207,208	△171,275
長期借入れによる収入	116,700	26,520
長期借入金の返済による支出	△271	△108,559
リース負債の返済による支出	△42,327	△44,610
配当金の支払額（親会社の所有者）	△91,449	△102,008
配当金の支払額（非支配持分）	△7,453	△8,911
その他	△10	△125
財務活動によるキャッシュ・フロー	70,677	△348,743
現金及び現金同等物に係る換算差額	△15,856	32,346
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	228,181	41,292
現金及び現金同等物の期首残高	432,924	810,546
売却目的で保有する資産に含まれる現金及び現金同等物	—	△1,606
現金及び現金同等物の四半期末残高	661,106	850,232



## 【要約四半期連結財務諸表注記】

### 1. 報告企業

株式会社ブリヂストン(以下、当社)は、日本に所在する株式会社であります。2021年9月30日に終了する9ヶ月間の当社の要約四半期連結財務諸表は、当社及びその子会社(以下、当社グループ)、並びに当社の関連会社及び共同支配企業に対する持分により構成されております。

当社グループの事業内容は、注記「6. 事業セグメント」に記載しております。

### 2. 作成の基礎

#### (1) IFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、国際会計基準(IAS)第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

本要約四半期連結財務諸表は、2021年11月11日に当社取締役 代表執行役 Global CEO 石橋 秀一及び当社常務役員 Global CFO 吉松 加雄によって承認されております。

#### (2) 測定の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定されている金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

#### (3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を四捨五入して表示しております。

### 3. 重要な会計方針

要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

#### (非継続事業)

非継続事業には、既に処分されたか又は売却目的保有に分類された企業の構成要素が含まれ、当社グループの一つの事業もしくは地域を構成し、その一つの事業もしくは地域の処分の計画がある場合に認識しております。

#### (表示方法の変更)

非継続事業に分類した事業に係る損益は、要約四半期連結損益計算書において継続事業からの利益の後に法人所得税費用控除後の金額で区分表示しております。非継続事業に分類した事業に関して、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書並びに関連する要約四半期連結財務諸表注記を一部組み替えて表示しております。なお、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書における、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー及び財務活動によるキャッシュ・フローは、継続事業及び非継続事業の両事業から発生したキャッシュ・フローの合計額で表示しております。

### 4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

要約四半期連結財務諸表の作成において、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定を設定することが義務付けられております。実際の結果は、これらの見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直しております。会計上の見積りの変更は、見積りが変更された会計期間及び将来の会計期間において影響を与えております。

要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、COVID-19の影響も含め、前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様であります。

### 5. 未適用の公表済み基準書及び解釈指針

要約四半期連結財務諸表の承認日までに公表されている基準書及び解釈指針の新設又は改定のうち、当社グループで早期適用していない基準等において、当社グループの要約四半期連結財務諸表に重要な影響を及ぼすものはありません。

## 6. 事業セグメント

### (1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、経営管理上の区分であるSBU（戦略的事业ユニット）別での事業損益としてより適切な業績開示を行うことを目的とし、「日本」「米州」「欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ」「中国・アジア・大洋州」の4つを報告セグメントとしております。上記のセグメント区分において、タイヤ・チューブの製造及び販売、タイヤ関連用品の販売、リトレッド材料の製造及び販売・関連技術の供与、自動車整備・補修、化工品等の事業を行っております。

第1四半期連結会計期間より、当社グループではポートフォリオ経営の観点により導入した新KPIであるROI Cに基づき各セグメントを評価する目的から、組織体制の変更を行ったことに伴い、特殊タイヤ事業、航空機用タイヤ事業、一部の化工品事業、スポーツ用品事業及び自転車事業について、セグメントの区分変更を行っております。特殊タイヤ事業、航空機用タイヤ事業、一部の化工品事業については、子会社及び関連会社等の所在地別に「日本」「米州」「欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ」「中国・アジア・大洋州」の各セグメントに区分しておりましたが、「日本」セグメントへ統合しております。スポーツ用品事業及び自転車事業については、その他から「日本」セグメントへ変更しております。また、同様の目的から一般タイヤにおけるSBU間輸出損益を除いてセグメント損益を算出する方法に変更、本社管理費の配賦方法の変更を行っております。

当社グループはFSBP及び同社の子会社を非継続事業に分類しており、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の金額から非継続事業を控除しております。非継続事業の詳細については、注記「16. 非継続事業」に記載しております。

### (2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる継続事業からの収益及び業績は、以下のとおりであります。取締役会では、収益と調整後営業利益を検討のうえ、セグメント業績を評価し、経営資源の配分を決定しております。なお、セグメント間の内部売上収益又は振替高は、主に第三者間取引価格もしくは総原価を基に販売価格を決定しております。また、前第3四半期連結累計期間については、(1)に記載の変更後の区分に基づき組み替えております。

前第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	全社又は 消去	連結計
	日本	米州	欧州・ ロシア・ 中近東・ インド・ アフリカ	中国・ アジア・ 大洋州	計			
売上収益								
外部収益	553,657	845,439	392,323	203,082	1,994,500	9,633	32	2,004,164
セグメント間収益	59,353	4,251	2,347	29,511	95,462	27,455	△122,916	—
収益合計	613,010	849,690	394,670	232,593	2,089,962	37,087	△122,885	2,004,164
セグメント損益								
調整後営業利益又は損 失(△)	36,564	65,603	△12,597	16,216	105,786	△998	△1,085	103,703

当第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	全社又は 消去	連結計
	日本	米州	欧州・ ロシア・ 中近東・ インド・ アフリカ	中国・ アジア・ 大洋州	計			
売上収益								
外部収益	608,250	1,039,183	502,443	237,141	2,387,017	14,712	28	2,401,758
セグメント間収益	74,898	7,579	5,029	39,084	126,590	32,764	△159,354	—
収益合計	683,148	1,046,762	507,472	276,226	2,513,607	47,475	△159,325	2,401,758
セグメント損益								
調整後営業利益	54,905	147,356	32,364	32,060	266,685	5,169	6,068	277,922

調整後営業利益から税引前四半期利益への調整表

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
調整後営業利益(注1)	103,703	277,922
調整項目(収益)(注2)	33	1,103
調整項目(費用)(注3)	81,188	13,254
営業利益	22,547	265,771
金融収益	5,140	6,610
金融費用	17,097	11,587
持分法株式に係る減損損失	18,322	—
持分法による投資損益(△は損失)	△2,821	4,170
税引前四半期利益又は損失(△)	△10,553	264,964

(注1) 調整後営業利益は、営業利益から調整項目(収益及び費用)を除外しております。

(注2) 調整項目(収益)の主な内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
受取保険金	4	924
事業・工場再編収益	29	179
調整項目(収益)	33	1,103

(注3) 調整項目(費用)の主な内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
減損損失	(注4) 35,146	1,747
売上原価(災害損失)	(注5) 11,193	614
その他の費用(災害損失)	(注6) 2,641	398
事業・工場再編費用	(注7) 25,897	(注8) 7,935
その他一時的かつ多額の費用(注9)	6,310	2,560
調整項目(費用)	81,188	13,254

(注4) 減損損失の主な内訳は、有形固定資産の減損38,300百万円(内、5,148百万円は事業・工場再編費用へ計上)です。詳細は注記「9. 非金融資産の減損」に記載されております。

(注5) 主にCOVID-19の拡大防止のために政府や地方自治体による要請や声明等により、工場等の操業を停止した際、当該停止期間中に発生した固定費等を計上しております。

(注6) 主にCOVID-19の拡大防止のために政府や地方自治体による要請や声明等により、販売店等の営業を停止した際、当該停止期間中に発生した固定費や、イベントの開催を中止した際、当該イベント開催の準備及び中止のために直接要した費用等を計上しております。

(注7) 主に海外のタイヤ工場の閉鎖に向けて協議を開始した事に伴い関連する引当等及びユニットバス事業を譲渡した事等の費用を計上しております。なお、(注4)に記載のとおり、有形固定資産の減損損失5,148百万円が含まれております。

(注8) 主に海外のタイヤ工場の閉鎖に関連する費用を計上しております。

(注9) 当社の連結子会社であるブリヂストンサイクル株式会社が製造した自転車・電動アシスト自転車の一部対象車種においてリコールを実施したことに伴い、当該自転車・電動アシスト自転車の点検・改修等に関連した費用を計上しております。なお、当第3四半期連結累計期間において、当該費用を調整項目としておりますので、前第3四半期連結累計期間におきまして、同様の区分にて組み替えて表示しております。

7. 企業結合

前第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

(1) 子会社の売却

当社の米国子会社であるBRIDGESTONE AMERICAS, INC. は、2021年1月6日(現地時間)に、同社の子会社であり米州セグメントに属するF S B Pを、スイスの建設資材メーカーであるLafargeHolcim Ltdの米国子会社であるHolcim Participations (US) Inc. に売却することについて、同社と合意し、2021年3月31日に売却が完了いたしました。

本売却に伴い、F S B P及び同社の子会社に対する支配を喪失しました。

(2) 支配喪失日現在の資産及び負債の主な内訳

(単位：百万円)

	金額
支配喪失時の資産の内訳	
流動資産	64,084
非流動資産	52,118
支配喪失時の負債の内訳	
流動負債	31,777
非流動負債	30,834

(3) 支配喪失に伴うキャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
現金による受取対価	361,875
支配喪失時の資産のうち現金及び現金同等物	2,556
非継続事業の売却による収入	359,319

(注) 支配喪失に伴うキャッシュ・フローは、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書の投資活動によるキャッシュ・フローの「非継続事業の売却による収入」に計上しております。

## 8. 有形固定資産

有形固定資産の取得の金額は、前第3四半期連結累計期間において、113,914百万円、当第3四半期連結累計期間において、87,547百万円であります。

有形固定資産に係る減損損失の金額は、前第3四半期連結累計期間において、38,300百万円、当第3四半期連結累計期間において、4,645百万円であります。なお、詳細は注記「9. 非金融資産の減損」に記載されております。

## 9. 非金融資産の減損

前第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

(有形固定資産の減損)

前第3四半期連結累計期間に認識した有形固定資産に係る減損損失38,300百万円は、主に以下の理由によるものです。

### (1) 「欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ」セグメント

有形固定資産(ロシアにおける事業用資産)に関して、COVID-19の影響等、事業環境が変化し、想定された収益が見込めなくなったため、当該資産の帳簿価額を回収可能額まで9,993百万円減額したことによるものです。当該資産の回収可能額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを割引率10.3%で割り引いて算定しております。また、当減損損失は要約四半期連結損益計算書の「その他の費用」に計上しております。

### (2) 「中国・アジア・大洋州」セグメント

有形固定資産(中国における事業用資産)に関して、COVID-19の影響等、事業環境が変化し、想定された収益が見込めなくなったため、当該資産の帳簿価額を回収可能額まで19,347百万円減額したことによるものです。当該資産の回収可能額は処分コスト控除後の公正価値により測定しており、主にマーケットアプローチを用いた第三者による評価額等に基づき算定しております。公正価値のヒエラルキーはレベル3であります。また、当減損損失は要約四半期連結損益計算書の「その他の費用」に計上しております。

(持分法で会計処理されている投資の減損)

前第3四半期連結累計期間に認識した持分法で会計処理されている投資に係る減損損失18,322百万円は、主に「米州」セグメントにおける共同支配企業であるTIREHUB, LLC宛の投資に関して、COVID-19の影響等、事業環境が変化し、想定された収益が見込めなくなったため、当該資産の帳簿価額を回収可能額まで17,160百万円減額したことによるものです。当該資産の回収可能額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを割引率11.5%で割り引いて算定しております。また、当減損損失は要約四半期連結損益計算書の「持分法株式に係る減損損失」に計上しております。

## 10. 社債

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、社債の発行及び償還はありません。

## 11. 配当金

(1) 配当金の支払額は、以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)					
	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
(決議)		百万円	円		
2020年3月24日 定時株主総会	普通株式	56,325	80	2019年12月31日	2020年3月25日
2020年8月7日 取締役会	普通株式	35,206	50	2020年6月30日	2020年9月1日

当第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)					
	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
(決議)		百万円	円		
2021年3月26日 定時株主総会	普通株式	42,248	60	2020年12月31日	2021年3月29日
2021年8月10日 取締役会	普通株式	59,859	85	2021年6月30日	2021年9月1日

## 12. 売上収益

### 収益の分解

継続事業からの売上収益の内訳は以下のとおりであります。

なお、当社グループは第1四半期連結会計期間よりセグメント区分の変更を行っており、前第3四半期連結累計期間については、変更後の区分に基づき組み替えております。詳細については、注記「6. 事業セグメント」に記載しております。

前第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	全社又は 消去	連結計
	日本	米州	欧州・ ロシア・ 中近東・ インド・ アフリカ	中国・ アジア・ 大洋州	計			
タイヤ	347,810	821,715	392,323	203,082	1,764,930	8,899	32	1,773,861
その他(注1)	205,847	23,723	—	—	229,571	733	—	230,304
外部収益 合計	553,657	845,439	392,323	203,082	1,994,500	9,633	32	2,004,164
顧客との契約から認識 した収益	543,668	842,320	386,736	203,082	1,975,806	9,633	32	1,985,470
その他の源泉から認識 した収益(注2)	9,989	3,119	5,587	—	18,694	—	—	18,694

(注1) 「その他」には、当社が行っている化工品、スポーツ用品、自転車事業等を含んでおります。

(注2) その他の源泉から認識した収益には、IFRS第16号「リース」(以下、IFRS第16号)に基づくリース収益が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	全社又は 消去	連結計
	日本	米州	欧州・ ロシア・ 中近東・ インド・ アフリカ	中国・ アジア・ 大洋州	計			
タイヤ	378,406	1,010,598	502,443	237,141	2,128,588	14,017	28	2,142,633
その他(注1)	229,844	28,585	—	—	258,429	695	—	259,125
外部収益 合計	608,250	1,039,183	502,443	237,141	2,387,017	14,712	28	2,401,758
顧客との契約から認識 した収益	596,418	1,035,947	496,184	237,141	2,365,690	14,712	28	2,380,430
その他の源泉から認識 した収益(注2)	11,832	3,236	6,259	—	21,328	—	—	21,328

(注1) 「その他」には、当社が行っている化工品、スポーツ用品、自転車事業等を含んでおります。

(注2) その他の源泉から認識した収益には、IFRS第16号に基づくリース収益が含まれております。



13. 販売費及び一般管理費

「販売費及び一般管理費」の内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
販売運賃	103,652	133,710
広告宣伝費及び販売促進費	57,009	59,282
従業員給付費用	192,591	211,296
減価償却費及び償却費	64,967	66,757
研究開発費(注)	70,067	72,583
その他	136,081	136,237
合計	624,368	679,864

(注) 費用として認識される研究開発費はすべて販売費及び一般管理費に含めております。

14. その他の収益及びその他の費用

「その他の収益」及び「その他の費用」の内訳は、以下のとおりであります。

(1) その他の収益

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
受取保険金	4	924
固定資産売却益	2,009	788
固定資産圧縮損・交付金・補助金	1,675	283
和解金・賠償金	789	12
その他	3,383	3,359
合計	7,861	5,365

(2) その他の費用

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
事業・工場再編費用(注1)	25,897	7,935
固定資産除却損	1,407	2,018
減損損失(注2)	35,146	1,747
その他	5,687	3,195
合計	68,137	14,895

(注1) 事業・工場再編費用の主な内容は、注記「6. 事業セグメント」に記載されております。

(注2) 減損損失の主な内容は、注記「9. 非金融資産の減損」に記載されております。

15. 金融収益及び金融費用

「金融収益」及び「金融費用」の内訳は、以下のとおりであります。

(1) 金融収益

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
受取利息(注)	3,011	4,994
受取配当金(注)	1,821	1,286
その他	308	330
合計	5,140	6,610

(2) 金融費用

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
支払利息(注)	10,523	8,233
確定給付制度に係る純利息	2,869	1,749
その他	3,705	1,604
合計	17,097	11,587

(注) 受取利息及び支払利息は、償却原価で測定する金融資産及び金融負債に係るものであります。

また、受取配当金は、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に係るものであります。

#### 16. 非継続事業

当社の米国子会社であるBRIDGESTONE AMERICAS, INC. は、2021年1月6日(現地時間)に、同社の子会社であり米州セグメントに属するF S B Pを、スイスの建設資材メーカーであるLafargeHolcim Ltdの米国子会社であるHolcim Participations (US) Inc. に売却することについて、同社と合意し、2021年3月31日に売却が完了いたしました。

これにより、当第3四半期連結累計期間においては、F S B P及び同社の子会社を非継続事業に分類するとともに、前第3四半期連結累計期間についても、再表示し、当該非継続事業を区分して表示しております。

##### (1) 非継続事業の損益

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
	百万円	百万円
非継続事業の損益		
収益(注)	144,866	347,840
費用	△124,125	△41,312
非継続事業からの税引前四半期利益	20,741	306,528
法人所得税費用(注)	△4,833	△76,585
非継続事業からの四半期利益	15,908	229,944

(注) 当第3四半期連結累計期間において、F S B Pを譲渡したことによる売却益299,821百万円が含まれております。これに係る法人所得税費用は69,529百万円であります。

##### (2) 非継続事業からのキャッシュ・フロー

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
	百万円	百万円
非継続事業からのキャッシュ・フロー		
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,186	△303
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,985	352,173
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,072	—
合計	2,273	351,870

17. 1株当たり利益

(1) 基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)

基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)及びその算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益又は損失(△) (百万円)	△24,118	422,848
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益(百万円)	—	—
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)の計算に使用する四半期利益又は損失(△)(百万円)	△24,118	422,848
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)の計算に使用する継続事業からの四半期利益又は損失(△) (百万円)	△40,026	192,904
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する非継続事業からの四半期利益(百万円)	15,908	229,944
加重平均普通株式数(千株)	704,102	704,172
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)		
継続事業(円)	△56.85	273.95
非継続事業(円)	22.59	326.54
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)(円)	△34.25	600.49

	前第3四半期連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益又は損失(△) (百万円)	△2,074	70,528
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益(百万円)	—	—
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)の計算に使用する四半期利益又は損失(△)(百万円)	△2,074	70,528
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)の計算に使用する継続事業からの四半期利益又は損失(△) (百万円)	△9,812	69,285
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する非継続事業からの四半期利益(百万円)	7,738	1,242
加重平均普通株式数(千株)	704,119	704,226
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)		
継続事業(円)	△13.94	98.39
非継続事業(円)	10.99	1.76
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)(円)	△2.95	100.15

## (2) 希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)

希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)及びその算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)の計算に使用する四半期利益又は損失(△)(百万円)	△24,118	422,848
四半期利益調整額(百万円)	—	—
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)の計算に使用する四半期利益又は損失(△)(百万円)	△24,118	422,848
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)の計算に使用する継続事業からの四半期利益又は損失(△)(百万円)	△40,026	192,904
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する非継続事業からの四半期利益(百万円)	15,908	229,944
加重平均普通株式数(千株)	704,102	704,172
普通株式増加数		
ストック・オプションによる増加(千株)	—	1,075
希薄化後の加重平均普通株式数(千株)	704,102	705,247
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)		
継続事業(円)	△56.85	273.53
非継続事業(円)	22.59	326.05
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)(円)	△34.25	599.57

	前第3四半期連結会計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)の計算に使用する四半期利益又は損失(△)(百万円)	△2,074	70,528
四半期利益調整額(百万円)	—	—
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)の計算に使用する四半期利益又は損失(△)(百万円)	△2,074	70,528
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)の計算に使用する継続事業からの四半期利益又は損失(△)(百万円)	△9,812	69,285
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する非継続事業からの四半期利益(百万円)	7,738	1,242
加重平均普通株式数(千株)	704,119	704,226
普通株式増加数		
ストック・オプションによる増加(千株)	—	1,067
希薄化後の加重平均普通株式数(千株)	704,119	705,293
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)		
継続事業(円)	△13.94	98.24
非継続事業(円)	10.99	1.76
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)(円)	△2.95	100.00

(注1) 前第3四半期連結累計期間において、ストック・オプション1,090千株は逆希薄化効果を有するため、希薄化後1株当たり四半期損失の計算に含めておりません。

(注2) 前第3四半期連結会計期間において、ストック・オプション1,090千株は逆希薄化効果を有するため、希薄化後1株当たり四半期損失の計算に含めておりません。

## 18. 公正価値測定

金融商品の公正価値ヒエラルキーは、用いられる評価技法へのインプットに基づいて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1：活発に取引される市場の公表価格により測定された公正価値

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接、又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3：観察不能なインプットを含む評価技法から算出された公正価値

### (1) 公正価値で測定される金融商品

公正価値で測定される主な金融商品の測定方法は、以下のとおりであります。

#### (i) デリバティブ資産及びデリバティブ負債

デリバティブ資産及びデリバティブ負債は、それぞれその他の金融資産及び金融負債に含まれ、純損益を通じて公正価値で測定される金融資産及び金融負債に分類しております。これらは為替予約、通貨スワップ及び金利スワップ等であり、主に外国為替相場や金利等の観察可能なインプットを用いたモデルに基づき測定しております。

#### (ii) 株式

株式はその他の金融資産に含まれ、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産に分類しております。株式については、レベル1に区分されているものは活発な市場で取引されている上場株式であり、取引所の市場価格によって評価しております。レベル3に区分されているものは非上場株式であり、主として純資産に基づく評価モデル(株式発行会社の純資産に基づき、時価評価により修正すべき事項がある場合は修正した金額により、企業価値を測定する方法)等により測定しております。

公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーは以下のとおりであります。

前連結会計年度(2020年12月31日)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
デリバティブ資産	—	2,992	—	2,992
株式	71,383	—	10,891	82,274
合計	71,383	2,992	10,891	85,266
デリバティブ負債	—	10,991	—	10,991
合計	—	10,991	—	10,991

当第3四半期連結会計期間(2021年9月30日)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
デリバティブ資産	—	3,783	—	3,783
株式	88,602	—	15,645	104,247
合計	88,602	3,783	15,645	108,030
デリバティブ負債	—	6,438	—	6,438
合計	—	6,438	—	6,438

公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、振替のあった報告期間末において認識しております。なお、前連結会計年度及び当第3四半期連結会計期間において、レベル1とレベル2の間の振替はありません。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、レベル3のインプットを使用して定期的に公正価値で測定される資産及び負債の期首から期末までの変動は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
	百万円	百万円
期首残高	9,559	10,891
利得及び損失合計		
その他の包括利益(注)	△655	427
購入	405	3,572
売却及び回収	△12	△37
その他	627	792
期末残高	9,923	15,645

(注) 要約四半期連結包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動」に含まれております。

レベル3に分類される金融商品は、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産のうち、市場価格が入手できない金融商品であります。当該金融商品に係る公正価値の測定は、グループ会計方針に準拠し算定しております。公正価値を算定するに際しては、インプットを合理的に見積り、資産の性質等から判断して最も適切な評価方法を決定しております。

## (2) 償却原価で測定される金融商品

償却原価で測定される主な金融商品に係る公正価値の測定方法は、以下のとおりであります。

なお、帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっている金融商品及び重要性の乏しい金融商品は含めておりません。

### 社債及び借入金

社債の公正価値は、市場価格に基づいております。借入金の公正価値は、残存期間における元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
償却原価で測定される金融商品				
社債及び借入金	412,060	413,610	396,879	398,574
合計	412,060	413,610	396,879	398,574

## 19. コミットメント

有形固定資産の取得に係るコミットメントは、前連結会計年度末、当第3四半期連結会計期間末においてそれぞれ、49,066百万円、56,802百万円であります。

## 20. 後発事象

該当事項はありません。

## 2【その他】

### 中間配当

2021年8月10日開催の取締役会において、次のとおり第103期の中間配当を行うことを決議しております。

1株当たりの中間配当金	中間配当金額	支払開始日
85円	59,859,145,825円	2021年9月1日



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月11日

株式会社ブリヂストン

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 芳 賀 保 彦 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 植 木 拓 磨 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 藤 春 暁 子 ㊞

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ブリヂストンの2021年1月1日から2021年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(2021年1月1日から2021年9月30日まで)に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、株式会社ブリヂストン及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 要約四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

## 要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他

の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。